

私たちの訪問介護の挑戦 — 在宅介護を諦めさせない —

2026年2月26日
株式会社福祉の里
取締役事業本部本部長
松浦 友美



福祉の里

自己紹介

・前職：不動産営業（介護未経験）

- ・1997年 福祉の里入社
- ・訪問入浴 → 福祉用具
- ・訪問介護（サ責・管理者）
- ・在宅ケアマネジャー



- ・訪問介護13拠点を統括
- ・現在：事業本部
 - ↳ 全サービス統括／採用／働きやすい環境づくり

福祉の里

会社紹介

介護のお家族を支える

- 株式会社福祉の里（本社：愛知県北名古屋市）
- 昭和58年設立
- 代表取締役社長 矢吹華絵
- 愛知県19拠点、岐阜県4拠点、大阪府1拠点にて事業を展開



福祉の里

会社紹介

- 在宅サービス
 - 訪問入浴、訪問介護、訪問看護
 - 居宅介護支援、福祉用具、ショートステイ
- 地域密着型サービス
 - グループホーム、小規模多機能型居宅介護
 - 看護小規模多機能型居宅介護（2026.3開設）
- 市町村委託
 - 地域包括支援センター



福祉の里

会社紹介

令和7年度 介護職員の働きやすい職場環境づくり
厚生労働大臣表彰 優良賞を受賞



記録システム導入による
業務効率化

仕事と育児・介護の
両立支援29施策

科学的介護の推進による
やりがい創出

福祉の里

本日お話しすること

1.これまでの取り組み

2.これからの課題・展望

福祉の里

私たちの目指す訪問介護

- 在宅で暮らしたい
その当たり前の願いを、あきらめてほしくない
- 病院でも施設でも、
24時間ずっとそばにいられるわけではない
- 私たちは、在宅でも
必要な時に、必要なケアを届ける存在でありたい



忙しさだけでは人は守れない

- 「断らない」姿勢で**全依頼を受け入れ**
- 生活援助・総合事業が中心、**長時間ケア**が多数
- 本当に**必要な方へサービスが届きにくい**状況

定着せず
離職率が高い
(25%)

ギリギリの
シフト

給与改善
できない

赤字転落の
危機

福祉の里

誇りがある、だから変わった

- 総合事業や生活援助も
地域を支える大切な介護という誇り
- シフトが埋まる日々に、**充実感と達成感**
- 忙しさの中にも、**やりがい**を感じられる現場



福祉の里

断らない勇気から、選ぶ勇気へ

- 断らないから**必要な支援へ集中**する意識転換
- 特定事業所加算**は、介護福祉士の専門性を国が
評価する制度
- 福祉の里の**使命**は在宅サービスを諦めさせない
- 真のニーズ**を見極め、的確な支援へつなげる

地域を支える介護のプロとしての覚悟

福祉の里

取り組み内容

- 特定事業所加算を取得し、専門性のあるケアへ
- 身体介護の質を高め、必要なケアへシフト
- 生産性向上と業務のムダ削減
- DX活用でスタッフの負担を軽減



量から質へ
ケアの未来を見据えた挑戦

福祉の里

改革のフロー まとめ

【誇りある現場】

【危機認識】生き残るために変わる

【問い直し】介護福祉士の役割とは？

【戦略】特定事業所加算 = プロの証

【実行手段】DX化で要件クリア

【目指す姿】持続可能な誇りある事業所

福祉の里

加算取得と業務改善の歩み

- 2016年 特定事業所加算IIを取得
 - アナログ運用で現場が大変さを実感
 - 半年後にソフト導入



- 2023年 特定事業所加算Iを取得
 - 身体介護への対応をさらに強化
 - 総合事業は地域の状況に応じて必要量を調整

福祉の星

特定事業所加算の要件（抜粋）

研修

	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)
1.訪問介護員等・サービス提供責任者ごとに作成された研修計画に基づく研修の実施	○	○	○	○	○
2.利用者に関する情報又はサービス提供に当たっての留意事項の伝達等を目的とした会議の定期的な開催	○	○	○	○	○
3.利用者情報の文書等による伝達、訪問介護員等からの報告	○	○	○	○	○
4.健康診断等の定期的な実施	○	○	○	○	○
5.緊急時等における対応方法の明示	○	○	○	○	○
6.病院、診療所又は訪問看護ステーションの看護師との連携により、24時間連絡できる体制を確保しており、かつ、必要に応じて訪問介護を行うことができる体制の整備、看取り期における対応方針の策定、看取りに関する職員研修の実施等	○	-	○	-	-

記録

福祉の星

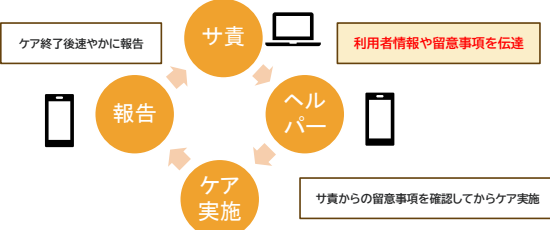
生産性向上

- 記録のDX化
 - スタッフ全員にスマホの貸与
 - シフトは各自スマホで確認
 - 複数回訪問はケア終了後、すぐに確認可能
- 研修のDX化
 - 全員の研修計画の管理を自動化
 - スマホやタブレットからどこでも受講可能
 - ヘルパーの受講状況は、管理者アカウントで把握

福祉の星

記録のDX化

- ・サービス開始前に各訪問介護員等に対し、利用者情報や留意事項を文書などで確実に伝達
- ・サービス提供後は訪問介護員等から報告を受け、記録を保存



福祉の星

記録ソフト導入で変化したこと①

- ・サービス開始前に各訪問介護員等に対し、利用者情報や留意事項を文書などで確実に伝達

- 留意事項の用紙を準備。ヘルパー提出された記録書を確認し、留意事項をサ責が記入
- ヘルパーはケアに入る前に必ず事業所に寄り留意事項を確認、印鑑を押す



- スマホで現場に入る前に前回の記録とサ責からの留意事項を確認
- 事業所に寄るのは月に数回



福祉の星

記録ソフト導入で変化したこと②

- ・実績の確認・請求・ケアマネジャーへの報告

- ヘルパーは複写の用紙をお客様宅で記載、1枚はお客様宅へ、もう1枚は事業所へ提出
- サ責は提出された記録書を確認し、留意事項を記載
- 事務は記録書から提供表へ転記・請求書システムへ入力



- ヘルパーはケアが終了したら終了ボタンを押して退出、次のケアに入るまでに報告を入力
- サ責は入力された報告内容を確認して、次のヘルパーへの留意事項を入力
- 実績は自動的に請求システムへ反映される



福祉の星

研修のDX化

- 登録ヘルパーを含むすべての訪問介護員等とサービス提供責任者に対して個別に研修計画を作成し、実施すること
- 研修計画には、具体的な研修の目標、内容、期間、実施時期などを盛り込む



オンライン動画研修サービス

福祉の星

研修ソフト導入で実現したこと

- ☆法定研修と個別研修を一括管理
- ☆研修の受講は空いた時間で
- ☆自宅でも事業所でも、車内でもどこでも受講可能
- ☆未受講者は管理画面で把握可能
- ☆声掛けメール、直接声掛けで受講を促す

福祉の星

取り組み成果 — 生産性向上 —

具体的な内容	取組前 (2017年1月)	取組後 (2025年1月)
ヘルパーの訪問件数 (1人あたり)	6.58件/日	7.36件/日
ヘルパー稼働率	68.00%	72.40%
サービス提供責任者の現場稼働率	77.40%	47.30%
サービス提供責任者の残業時間 (1人あたり)	31.4時間/月	4.65時間/月
サービス提供責任者の休日日数 (1人あたり)	6.78日/月	10.0日/月
介護保険サービスに占める身体介護比率	54.30%	76.50%

福祉の星

数字が語る、現場が変わった

- 管理者が、**数字を読む・根拠に基づく運営**を重視するように
- スタッフ全体が**専門性と効率の両立**を意識するように



感覚から根拠へ

福祉の星

両立支援 — 働く環境の改善 —

職員からのハッピーアンケートを元に
29個の取り組みを実施

- 企業型保育園の設置、保育料補助制度の導入
- ノーリフティングケア推進
- 有給取得キャンペーン
- ディズニーランド研修



働きやすい職場を目指して

あいち女性輝きカンパニー認証 (2020年取得/2021年優秀賞受賞)
女性活躍推進の取り組みが評価され、地域社会から高い信頼を獲得しました。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業賞 (2021年中堅企業の部 受賞)
ワークライフバランスを重視し、家庭と仕事の両立を支援する企業として表彰されました。

PRIDE指標 (2019年シルバー認定/2020年以降ゴールド認定連続取得)
LGBTQ+に関する取り組みを継続的に推進し、ダイバーシティ&インクルージョンを実現しています。

くるみん認定 (2020年取得)
子育て支援に積極的に取り組む企業として認定され、安心して働ける環境を整えています。



福祉の星

取り組み成果 — 両立支援 —

具体的な内容	取組前 (2017年1月)	取組後 (2025年1月)
離職率	25%	0%
有給取得率	21.80%	70.40%
有給休暇平均取得日数(1人あたり)	3.1日/年	13.1日/年
事業所の平均勤続年数	7年5カ月	15年7カ月
事業所のスタッフ数(常勤換算)	7.67人	12.63人
就業規則・働き方に関する規定・規則の種類	5種類	13種類

福祉の星

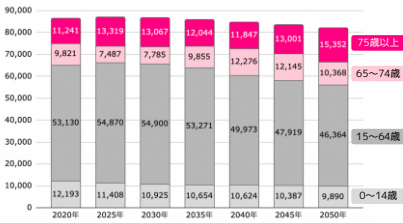
本日お話しすること

1.これまでの取り組み

2.これからの課題・展望

福祉の星

北名古屋市の将来推計人口

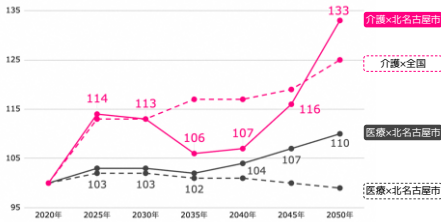


人口は減るが、高齢者は増える
特に後期高齢者が爆発的に増える

※ 地域情報医療システムより

福祉の星

北名古屋市の将来像



- 医療需要：2050年に +10%
微増だが、医療供給不足で逼迫感は強まる
- 介護需要：2050年に +32.7%
訪問・通所・施設・在宅医療すべてで受け皿不足が深刻化

※ 地域情報医療システムより

福祉の星

北名古屋市の課題

- 1.後期高齢者の急増
- 2.生産年齢人口の減少
- 3.慢性期・生活習慣病患者の増加
- 4.施設入所需要の増加・供給は全国平均以下

在宅シフトを強制される地域構造

福祉の星

介護需要爆発 × 医療資源不足

- 在宅で入院と同じ安心を
- 在宅で施設入所と同じ安心も
- 本人のどこで暮らしたいかを最優先に
- その思いを実現するために、
訪問看護 × 訪問介護の融合を推進



より重度な方への対応を強化し、看介護の会社へ

今後も、地域のニーズに応えながら

- より重度な方への対応を強化
- 看護と介護の融合を推進
- 専門性と効率の両立を追求

在宅をあきらめさせない介護の未来へ

**WE
ARE
FUKUSHINO SATO!**

ご清聴ありがとうございました

Instagram・Xでは、介護の現場での“あるある”や気づきを発信しています。ぜひフォローして、日々の情報もチェックしていただけますと幸いです。



1コマイラストや
6コマ漫画など配信しています。